

農業に
懸ける
情熱

【失敗から成功への道筋を見出す】

父の静男さんと母の幸子さんの3人で約30畝の農地に米や小麦、タマネギ、
てん菜を栽培しています。

会社員として仕事をしていたが、将来を考えたとき農業に魅力を感じた
ため、退職して就農。現在は、失敗から得た学びを活かして、納得のいく作物の
栽培を目指して日々農業と向き合っています。



【理想を求めて日々探求】

「大学を卒業してから会社員として働いていました。就農するきっかけは、将来を考えたとき、頑張っても毎月もらえる給料が変わらない会社員よりも、頑張れば頑張った分だけ収入を得ることができる農業の方が仕事としての魅力を感じたからです。会社を退職して、滝川市の花野菜技術センターで総合技術研修を受け、基礎理論から実践技術を半年間勉強した後、就農しました」と話す雅司さん。

就農して5年が経過しましたが、わからないことがあれば何でも聞くように心掛けています。3年前からてん菜を栽培していますが、初年度は知識や経験もなく、何をすればいいのかわからなかったため、地域の先輩やJA職員にいろいろなことを聞き、言われた通りに栽培を行うと糖度も高く質の良い作物ができました。初年度の経験を活かして自分なりに工夫を加えてみましたが2年目、3年目は成功を収めることはできませんでしたが、農業は失敗から学ぶことが多く、次はこうしてみようとして試行錯誤を繰り返して、自分が求めるものを追求できるので、失敗をしても前向きにチャレンジしていきたいです」

「高収量・高品質の作物を栽培し、納得のいく収入を得ることで仕事のやりがいと達成感を感じます。自分が農業の道を選択して良かったと思えるよう、これからは失敗を恐れずに挑戦していきます」と農業に懸ける情熱を話してくれました。

岩見沢市北村赤川
いけだまさし
池田 雅司 さん(32歳)